

尾瀬のオコジョ目撃情報

公益財団法人尾瀬保護財団 原田林太郎

1. はじめに

オコジョ (*Mustela erminea*) (図1) は食肉目イタチ科の哺乳類で、ユーラシア北部と北アメリカに広く分布し、国内では本州中部の北アルプス・中央アルプス以北の山岳地と北海道に生息している。本州産は特にホンドオコジョと亜種で区別される(阿部ら 2005)が、環境省、群馬県のレッドリストでいずれも準絶滅危惧種とされており、生息数は多くない。

尾瀬では、愛嬌のある顔とせわしない動きで人気があり、尾瀬の麓である福島県檜枝岐村のロゴマーク(図2)にも使用されている。そこで尾瀬山の鼻ビジターセンター(群馬県設置)、尾瀬沼ビジターセンター(環境省設置)(以下山の鼻VC、尾瀬沼VC)では来館者サービスの一環として、オコジョ目撃者におこじょ発見証明書(図3)を発行している。

今回は、その目撃データから尾瀬のオコジョ生息状況を検討した。



図1：尾瀬のオコジョ(至仏山)

図2：檜枝岐村ロゴマーク

図3：おこじょ発見証明書

2. 調査結果

①目撃件数年推移

平成21年～平成26年の山の鼻VC、尾瀬沼VC(平成24年末集計)に寄せられた目撃件数の年推移を図4に示す。調査期間は年によって多少の変動があるが、概ね5月～10月の6ヶ月間である。単独個体の目撃が大半であるが、中には3～6匹の親子を目撃した情報も寄せられた。

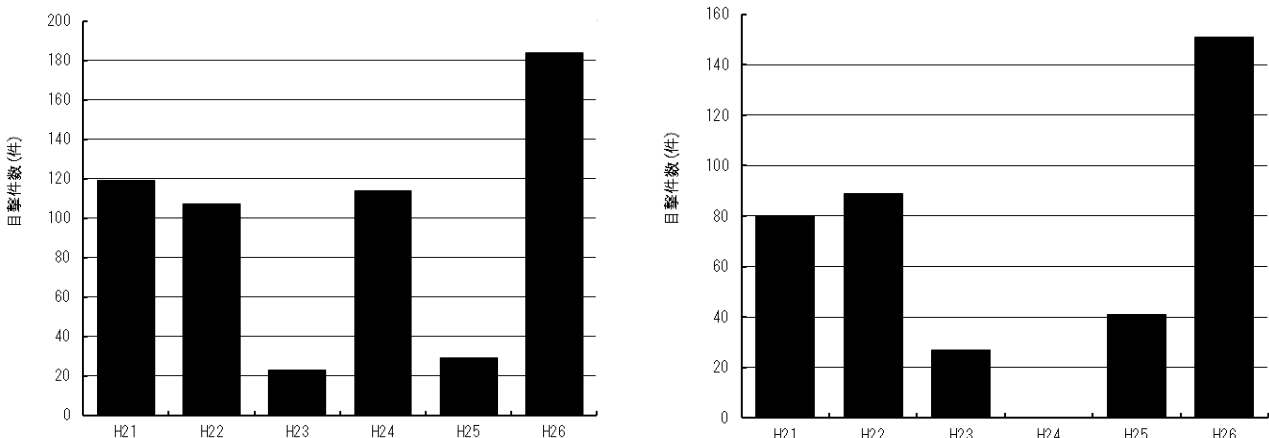


図4：オコジョ目撃件数経年変化(左：山の鼻VC、右：尾瀬沼VC)

②月別目撃件数

平成 21 年～平成 26 年の山の鼻 VC、尾瀬沼 VC（平成 24 年未集計）に寄せられた月別の目撃件数を図 5 に示す。値は 6 年間（尾瀬沼 VC は 5 年間）の合算である。

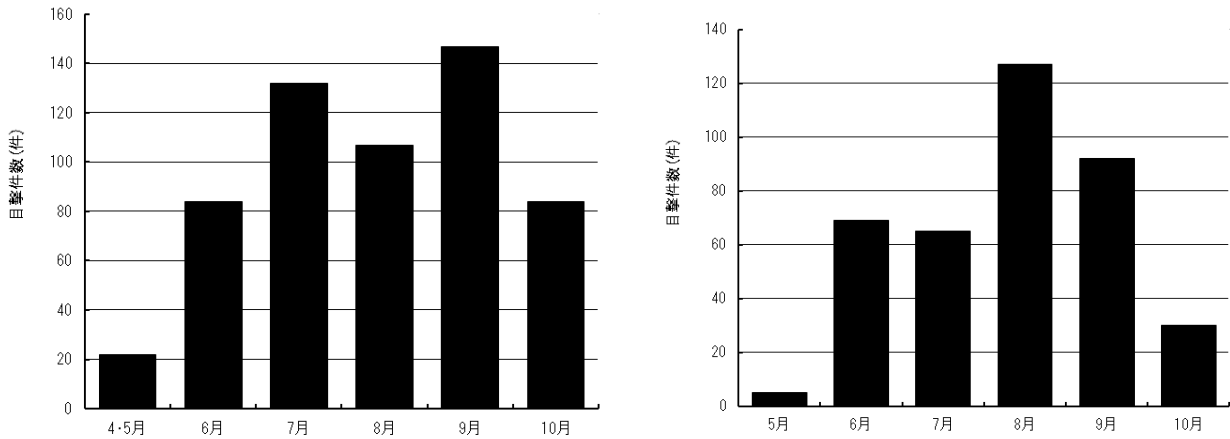


図 5：月別オコジョ目撃件数（左：山の鼻 VC、右：尾瀬沼 VC）

3. 考察

平成 26 年は過去 6 年間で最も目撃件数が多かったため、尾瀬地域の個体数が中・長期的に減少している傾向は見られない。平成 23 年、25 年の目撃件数が減少している要因としては、オコジョは動物食に偏り、ノネズミ類や昆虫などを主に捕食する（阿部ら 2005）が、平成 22 年、24 年が尾瀬地域ではブナの凶作年（尾瀬保護財団調べ）であり、種子等を主食とするノネズミ類の個体数が翌年減少したことに伴い、オコジョの目撃件数が減少したと推察される。

月別では 7 月から 9 月、特に 8、9 月の目撃が多い。尾瀬国立公園の入山者数 6 月、7 月が多い（環境省データ）ため、入山者数と目撃件数は必ずしも比例しない。この要因としては、オコジョの出産期及び子育て期が 4 月から 8 月であり（野紫木 1997）、テリトリーの定まっていない、親離れした個体がよく目撃されたものと考えられる。

4. 今後の課題

山の鼻 VC、尾瀬沼 VC 来館者へのサービスで行っている事業から副次的に得られたデータのため、科学的なデータとは言い難いが、生息状況の一端を窺い知ることができた。現在は両 VC 来館者からのデータのためのため、両 VC に立ち寄らない人、帰路に目撃した人からは情報を得られていない。調査精度を高めるためには、尾瀬保護財団事務局でも情報収集するとともに、情報提供の呼びかけをより広く周知していくことが必要である。

引用文献

阿部永ほか（2005）日本の哺乳類 [改訂版] 東海大学出版会 206pp

野紫木洋（1997）白山におけるホンドオコジョの生態について 平成 8 年度生態系多様性地位調査（白山地区）報告書（環境庁委託）41-48 石川県

※本調査は群馬県、環境省の協力、データ提供のもと実施した。